

明治三十四年五月

明治三十四年度 東京蠶業講習所一覽

265
50

東京蠶業講習所一覽

目次

第一章	沿革	一
第二章	法令	四
	一、官制	四
	二、分課規程	六
	三、蠶種配布規程摘要	六
第三章	講習ニ關スル規程	七
	一、講習規程摘要	七
	二、研究生規程摘要	十一
	三、留學生規程摘要	十一
	四、製絲短期講習規程摘要	十二
第四章	職員	十三
第五章	事蹟	十六

明治
43. 5. 14
内交

一、講 習	十六頁
二、試験及調査	二十一頁
三、蠶種配布	二十三頁
四、巡回講話	二十四頁
五、質問應答及鑑定	二十五頁
六、報告刊行	二十五頁
第六章 土地並ニ營造物	
一、土 地	二十六頁
二、營造物	二十七頁
第七章 四十三年度試験項目	
一、試験部試験項目	二十七頁
二、夏秋蠶部試験項目	三十頁

東京蠶業講習所一覽

第一章 沿革

明治以降政府ニ於テ蠶業上ニ關スル試験及傳習ノ事業ヲ經營セルハ明治七年三月内務省勸業寮所轄内藤新宿試験場内ニ蠶業試験場ヲ設ケタルヲ以テ嚆矢トス、尋テ蠶事學校設置ノ計畫アリシモ同十二年五月ニ至リ該試験場廢止セラレタル爲メ其事遂ニ成ラス以來中央政府ハ蠶絲業ニ關スル試験傳習ノ事業ヲ中絶スルニ至レリ

然ルニ明治ノ初年伊佛諸邦ノ蠶業ニ害毒ヲ逞セル微粒子病ハ當時本邦ニ於テモ亦其慘禍ヲ被ラントスルノ兆アルヲ發見シタルニ依リ農商務省ハ之カ撲滅豫防ノ方法ヲ講究スルノ必要ヲ認メ明治十七年四月東京府麹町區内山下町ニ蠶病試験場ヲ設ケ微粒子病ニ關スル各種ノ試験ニ着手セリ之レ即チ蠶業講習所ノ起源ナリトス

明治十九年ニ至リ以上三ヶ年間ノ試験成績ニ依リ本邦養蠶ノ微粒子病ノ爲メ收穫ヲ減殺セラル、コト頗ル夥多ナルヲ知レルノ結果此年九月ヲ以テ蠶種検査規則ノ發布ヲ見ルニ至レリ而シテ之カ検査員養成ノ必要ヲ生シ同年十月地ヲ東京府下北豊島郡西ヶ原ニ移シ該検査法ノ傳習ヲ開始シ傍ラ蠶業ニ關スル一般學術ノ傳習ヲ行ヒ尙養蠶上一般ノ學理及實地ノ試験研究ヲ行フコト、シ二十年四月名ヲ蠶業試

驗場ト改稱セリ

明治二十三年ニ至リ傳習ノ程度ヲ高メ學期ヲ延長シ地方養蠶教師又ハ巡回教師タルヘキモノヲ養成シ以テ世ノ進連ニ協ハンコトニ勉メタリ

明治二十四年三月農務局假試驗場蠶事部ト改稱セラレタリシカ同二十六年農事試驗場官制發布セラレ、ニ及ヒ本部ハ舊ニ復シ蠶業試驗場ト稱スルニ至レリ

蠶業試驗場ハ上記ノ如ク去ル十七年蠶病試驗場トシテ創設セラレシ以來常ニ斯業ノ發達ト變遷ニ鑑ミ數回其組織ト設備ト改善ヲ行ヒ以テ之カ進連ノ利導ニ勉メタリト雖宇内ニ於ケル蠶業進歩ノ大勢ハ駸々トシテ止マズ斯業ニ關スル試驗及傳習事業擴進ノ必要ハ朝野人士ノ認識スル所トナリ遂ニ明治二十九年三月十八日蠶業講習所官制ノ發布ヲ見ルニ至レリ茲ニ於テ前ノ蠶業試驗場ヲ改メテ蠶業講習所トナシ大ニ其規模ヲ擴張シ設備ヲ整ヒ且更ニ巡回講話、蠶種配付、質問應答等ノ業務ヲ新設シ以テ直接營業者ヲ指導裨益スルノ方法ヲ講シ又傳習ハ其程度ヲ高メ本科別科ノ二トシ且卒業生ニシテ進ンテ深造ノ學術ヲ脩メントスル者ノ爲メ別ニ研究科ヲ設クル等各種ノ事業益々廣汎深遠ヲ加フルニ至レリ然レトモ本邦蠶絲業進歩ノ趨勢ハ尙之ヲ以テ足レリトセス三十二年四月京都府下ニ同程度ノ蠶業講習所ヲ置サレ本所ハ同年六月ヨリ東京蠶業講習所ト改稱シ東西相應シテ斯業ノ擴進改善ニ勉ムルコト、ナ

本邦蠶業ノ進歩ハ頗ル長足ナルモノアリテ殊ニ夏秋蠶業ノ發達極メテ急速ナルニ從ヒ發病蔓延ノ弊漸ク多ク消毒法普及ノ必要甚ダ切ナルヲ認メ此等指導獎勵ノ任ニ當ルヘキ者ヲ養成スルノ目的ヲ以テ三十四年ヨリ三ヶ年間毎年一回各府縣ヨリ講習生五十名宛ヲ募集シ蠶病消毒講習ヲ開キ同法ニ關スル學理實施ノ講習ヲナセリ

斯ノ如ク本所ハ時勢ノ變遷ニ從ヒ其組織并ニ設備ノ改善ニ怠ラサリシト雖モ本邦蠶絲ノ需要國タル歐米諸國ノ機業界ハ其進歩著シク益々精良ナル原料ヲ要望スルコト急ナルニ鑑ミ本邦製絲改善ノ緊要ナルヲ認メ明治三十五年ニ至リ更ニ其規模ヲ擴張シ製絲業ニ關スル種々ノ試驗研究ニ從事スルト共ニ斯業指導誘掖或ハ經營ノ任ニ當ル者ヲ養成スルノ目的ヲ以テ講習規程ヲ改正シ特ニ製絲ノ講習科ヲ設ケ男生ノ外女生ヲモ募集シ以テ直接工女指導ノ任ニ當ル者ヲ養成スル等本所ノ業務ハ益々擴張整理ノ緒ニ着キタリ又三十八年五月ニ至リ斯業進歩ノ狀勢ニ鑑ミ養蠶部別科ヲ廢シ本科男生ノ講習程度ヲ高メ其學期ヲ三ヶ年ニ延長セリ

轉折夏秋蠶業ノ發達ハ愈急ニシテ其發展上試驗研究ヲ要スル事項頗ル多キヲ加ヘシヲ以テ規模ヲ擴張シテ四十二年三月本所ニ夏秋蠶部ノ一部ヲ新設シ之レヲ長野縣松本市ニ置キ專ラ夏秋蠶ニ關スル試驗研究ニ從事スルコト、ナレリ然ルニ時勢ノ進連ハ更ニ本所ノ組織ヲ改ムルノ必要ヲ生ジ四十二年四月從來ノ養蠶部、製絲部、夏秋蠶部報告課及庶務課ヲ改メテ講習部、試驗部、夏秋蠶部及庶務課ト爲ス

ニ至レリ

是ヨリ先キ蠶病消毒ノ普及ニ伴ヒ「フォルマリン」ノ需用大ニ増加セルモ之レカ良否ノ識別困難ニシテ
往々不良品ノ爲メ消毒効果ヲ完フルコト能ハサルモノアルヲ認メ三十九年九月及四十年九月ノ二回短
期講習ヲ開始シ檢定法ノ講習ヲ行フテ技術者ヲ養成シ又地方製絲場ニ於ケル監督指導者ニ對シ學理ノ
一般ヲ諒得セシムルハ斯業ノ改良ヲ圖ル上ニ於テ甚ダ緊要ナルヲ認メ四十年ヨリ毎年二月短期講習ヲ
開設シテ製絲法其他必要ナル學科ヲ教授セリ

第二章 法令

(一) 官制

勅令第二十八號 明治二十九年三月十八日

三十二年三月三十日勅令第八十九號ヲ以テ改正
三十五年三月二十七日勅令第四百六號ヲ以テ改正
三十九年六月二十九日勅令第四百九號ヲ以テ改正
四十二年三月二十一日勅令第四百七號ヲ以テ改正
四十四年三月二十六日勅令第八十三號ヲ以テ改正

第二條 蠶業講習所ハ二箇所トス農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 蠶絲業ニ關スル講習

二 蠶絲業ニ關スル試験及調査

四 蠶病防疫

五 質問應答

第二條 蠶業講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師

舎監

技手

書記

第三條 所長ハ一人技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第五條 舎監ハ技師技手又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ講習生ノ取締ヲ掌ル

第六條 技手ハ上官ノ命ヲ承ケ所務ニ従事ス

第七條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八條 蠶業講習所ヲ通シテ專任技師二十二人專任技手二十一人專任書記九人ヲ以テ定員トス

第九條 蠶業講習所ノ位置及名稱ハ農商務大臣之ヲ定ム

(二) 分課規程

文第七五號 明治四十三年三月三十一日

- 第一條 東京蠶業講習所ニ講習部、試験部、夏秋蠶部及庶務課ヲ置ク
- 第二條 講習部ニ於テハ養蠶製絲ニ關スル學理及技術ノ講習並講話ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第三條 試験部ニ於テハ養蠶製絲ニ關スル試験及調査、質問應答並蠶種ノ配付ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第四條 夏秋蠶部ニ於テハ夏秋蠶ニ關スル試験及調査講話並質問應答ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第五條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 文書ノ接受、發送及保管ニ關スル事項
 - 二 報告書及圖書等ニ關スル事項
 - 三 會計ニ關スル事項
 - 四 他部ノ主掌ニ屬セザル事項

(三) 蠶種配布規則摘要

農務省令第五號 明治二十九年五月八日

(三十二年五月一日省令第三號ヲ以テ第七條追加) (三十五年十一月十九日省令第三十二號ヲ以テ改正)

第一條 講業講習所ニ於テ製造スル蠶種ハ原種トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限り無代價ニテ配付ス

- 一 蠶病豫防法ニ依ル蠶種製造者
- 二 蠶絲業ニ關スル學校、講習所、傳習所又ハ試験場
- 第二條 蠶種ノ配付ヲ請求セントスル者ハ管轄道府縣廳ノ證明ヲ得テ毎年四月十五日迄ニ種名及蛾數ヲ明記シ所轄蠶業講習所ニ出願スヘシ
- 第三條 蠶種ノ配付ハ請求者一名ニ付五百蛾以内トス
- 第四條 蠶種ノ配當ハ出願ノ順序ニ依リ之ヲ定ム
配當ヲ受クルコト能ハサル者ニハ九月三十日迄ニ其旨ヲ通知スヘシ

第二章 講習ニ關スル規程

(一) 講習規程摘要

講習規程

明治二十九年五月二十六日

(三十二年六月二十二日改正、三十五年六月二十四日改正) (三十八年四月二十四日改正、四十一年七月五日改正)

- 第一條 本所ハ養蠶及製絲ニ關スル學理及技術ヲ講習ス
- 第二條 本所ニ養蠶科及製絲科ヲ置キ養蠶科ニ本科、製絲科ニ本科及別科ヲ置ク

第三條 講習生ノ定員左ノ如シ

一、養蠶科

本科 (男生)

六十名

二、製絲科

本科 (男生)

六十名

本科 (女生)

二十名

別科 (女生)

四十名

第四條 講習期限左ノ如シ

養蠶科

本科

三年

製絲科

本科 (男生)

三年

本科 (女生)

二年

別科

十箇月

講習生ハ自費トス但シ講習料ヲ敷取セズ

第六條 講習生ハ男生ニ在リテハ本所所定ノ制帽及制服ヲ、女生ニ在リテハ制服ヲ着用スヘシ

第七條 講習生ハ所内ニ寄宿スルモノトス但シ本所ノ都合ニ依リ通學ヲ命シ又ハ講習生ノ願ニ依リ通

學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十一條 入學志願者ハ品行方正ニシテ在學中家事ノ係累ナク第十二條ノ規定ニ該當スル者ニシテ左

ノ資格ヲ有スル者タルヘシ

一、養蠶科

本科

一、滿十七年以上ノ者

一、中學卒業生若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

二、製絲科

本科 (男生)

一、滿十七年以上ノ者

一、中學卒業生若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

本科 (女生)

一、滿十八年以上ノ者

一、二箇年以上製絲ニ從事シタル者

一、高等小學卒業生若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

別科

一、滿二十年以上ノ者

一、三箇年以上製絲ニ從事シ優等工女タリシ者

一、尋常小學卒業生若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

第十二條 入學志願者ハ身體強壯ニシテ左記ノ各項ニ該當セサル者タルヘシ

一、結核、咯血、癩狂、癩痢、癩病、梅毒、傳染性皮膚病、其他傳染性疾患アル者又ハ心臟、肺臟、助膜ノ著シキ疾患、助膜炎後ノ障害甚シキ者其他動作ニ堪ヘサル疾患アル者

二、發育不全ニシテ薄弱ナル者、高度ノ脂肪肥滿ナル者、四肢ノ著シキ彎曲若ハ不同又ハ甚ク筋肉薄弱ナル者、手指ノ缺損若ハ畸形ナル者、下肢靜脈ノ怒張著シキ者、又ハ動靜脈瘤等總テ動作ニ堪ヘサル者

三、精神ノ異狀、言語障害アル者又ハ甚シキ啞吃アル者

四、片眼若ハ兩眼ノ視力妨ケアル者又ハ色盲ナル者

但シ養蠶科ニ在リテハ眼鏡ヲ用テ其視力ヲ調節シ得ル者、製絲科ニ在リテハスネルレン氏

ノ視力表ノ三十號(九號)ヲ二十呎(六メートル)ノ距離ニ於テ明視シ得ル者ハ此限ニ在ラス
五、片耳若ハ兩耳ノ聾ナル者又ハ低聲ヲ聴取シ難キ者

(二) 研究生規程摘要

第一條 蠶業講習所卒業生(元農務局蠶業試驗場卒業生ヲ含ム)ニシテ既修ノ學科ニ就キ更ニ研究ヲ爲サント欲スル者ハ本規程ノ定ムル所ニ依リ研究生ト爲ルコトヲ得

第二條 研究生ノ定員左ノ如シ

養蠶科 拾 名

製絲科 貳拾 名

第三條 研究ノ期限ハ男生ニ在リテハ六箇月以上貳箇年以内女生ニ在リテハ一箇年内トス

但シ研究上必要アリト認ムルモノニ付テハ所長ハ其期限ノ伸縮ヲ許可スルコトアルヘシ

第四條 研究生タラント欲スル者ハ研究ノ事項及期限ヲ明記シタル願書ニ履歷書ヲ添付シテ講習所ニ差出スヘシ所長ハ詮議ノ上之ヲ許否ス

(三) 留學生規程摘要

第一條 外國人ニシテ蠶業講習所ノ講習ヲ受ケムト欲スル者ハ本規程ノ定ムル所ニ依リ留學生ト爲ルコトヲ得

第二條 入學志願者ハ志望ノ學科ヲ明記シタル願書ニ履歷書ヲ添付シ本邦駐劄公使ヲ經テ講習所ニ差出スヘシ所長ハ詮議ノ上之ヲ許否ス

第四條 留學生ニシテ規定ノ學科ヲ習得シタル者ニハ證明書ヲ交付ス

(四) 製絲短期講習規程摘要

第一 製絲短期講習ハ毎年一回東京蠶業講習所内ニ之ヲ開ク

第二 講習生ハ高等小學校卒業生以上ノ學力ヲ有シ五ヶ年以上製絲業ニ從事シ現在勤績セル者トス

第四 講習科目左ノ如シ

學科

- 一 製絲法
- 二 殺蛹貯繭法
- 三 工場管理法
- 四 機關取扱

第四章 職員

所長	技師	本多岩次郎
	技師 講習部長	辻暢太郎
(兼)	技師 農事試驗場技師	上田榮次郎
	技師 兼特許局審査官 試驗部長	林 驥作
	技師	石居 一郎
	技師	中村雅次郎
	技師 夏秋蠶部長	十時雄次郎
	技師 兼舍監	土屋 泰
(兼)	技師 農商務技師	明石 弘
	技師 兼舍監	町田 穰
	技師	肥後 俊彦
	技師	横田 長太郎
	技師	荒木 武雄
(兼)	技師	竹内 秀雄

技手	三谷徹
技手	松下憲三朗
技手	小松豊作
技手	兼生絲検査所技手 特許局審査官補
技手	宮澤錦雄
技手	岩淵平介
技手	坪井啓作
技手	高橋伊勢次郎
技手	霜新八郎
技手	水井壽一郎
技手	加藤小市
技手	岡戸一榮
技手	丹羽四郎
書記	本間登人
書記	戀田六造
書記	小田切昌行

書記	和田菊松
書記	海老原信七郎
嘱托員	吹井健三郎
全	圓中支助
全	山越八郎
全	坂本家則
全	笹原勝治
全	野村彦太郎
全	大石和三郎
全	齋藤孝
全	淺野肇
全	松村吉則
全	井上柳梧
全	鈴木梅太郎
全	田澤秀四郎

東京帝國大學農科大學教授
農學博士

東京高等工業學校教授
陸軍教授

中央氣象臺技師

（伊國バビヤ大學）
アリバアタ、ロツチエンサ

特許局審査官

農商務屬

農事試驗場技手

去ル明治十九年以來本所ヲ卒業セル者合計二千九十四名ニシテ之ニ蠶種検査法檢定試験及第者四拾九名及蠶病消毒法講習生壹百四拾叁名「フォルマリン」檢定法講習生三十名製絲短期講習生百四拾名ヲ加フルトキハ其數貳千四百五十六名ナリ此外清韓兩國ノ留學生ニシテ修學セル者三十一名アリ

(イ) 卒業生

(一) 講習

第五章 事蹟

全	全	全	全	全	全
松本測候所長	陸軍教授	石原純	中澤毅一	上田義雄	
館三之吉	柳澤巖	ローランド、バスカル、イーストレーキ			

年度 卒業當時ノ名稱 人員

明治十九年	蠶病検査場	二人	三三
同二十年	蠶病検査場	二人	二七
同二十一年	蠶病検査場	二人	二六
同二十二年	同	二人	一九
同二十三年	同	二人	三四
同二十四年	同	三人	四六
同二十五年	農務假試験場蠶事部	五人	四〇
同二十六年	蠶業試験場	五人	五〇
同二十七年	蠶業試験場	四〇	四八
同二十八年	蠶業試験場	六六	六一
同二十九年	蠶業講習所	六六	六二
同三十年	蠶業講習所	五五	四二
同三十一年	同	四五	四三
同三十三年	東京蠶業講習所	五二	四二
同三十三年	同	四五	四二
同三十四年	同	五二	四二
同三十五年	同	五二	四二
同三十六年	同	四五	四三
同三十七年	同	四二	三一
同三十八年	同	三一	二一
同三十九年	同	三一	二一
同四十年	同	三一	二一

明治二十一年
蠶種検査法檢定試驗及第者
蠶病消毒法講習生

四九
四〇
五三
五〇

同同同同同同同同同同同

計 四十二 四十一

年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	製	養	同	同	製	養	同	同	製
同	同	絲	蠶	同	同	絲	蠶	同	同	絲
		科	科	別	本	本	本	別	本	本
		科(女生)	科(男生)	科(女生)	科(女生)	科(男生)	科(男生)	科(女生)	科(女生)	科(男生)

二〇九四 三九八 一七四 三二九 一四九 一六六 二六八 一

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

四 三十九 三十八 三十七 三十六 三十五

年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	製	養	同	同	製	同	同	製	同	同	製	同	同	同	製
同	同	蠶	蠶	同	同	蠶	蠶	同	蠶	蠶	同	蠶	蠶	同	同	蠶
		科	科	別	本	本	本	別	本	本	別	本	本	別	本	本
		科(女生)	科(女生)	科(女生)	科(女生)	科(男生)	科(男生)	科(女生)	科(女生)	科(男生)	科(男生)	科(女生)	科(女生)	科(男生)	科(男生)	科(女生)

二七九 二一八 一一四 一四〇 一八六 二六四 一三三 四二 一六八 四三 三三 四一 二〇

退 所 年 次	三 十 三	三 十 二	三 十 一	同 十 年	同 十 年	同 十 年	明 治 三 十 九 年	同 十 年	明 治 三 十 九 年	計
	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
國	清	同	韓	清	同	清	清	清	清	計
別	國	國	國	國	國	國	國	國	國	「フォルマリン」檢定法講習生
修 業 科 別	同	同	養	同	同	同	同	同	同	製絲短期講習生
人 員	一 四 〇	三 六	三 四	三 四	三 六	三 六	三 〇	一 四	一 六	計

(へ) 外國留學生

(二) 「フォルマリン」檢定法講習生

(ホ) 製絲短期講習生

計	四 十 二	四 十 一	四 十 九	三 十 八	三 十 七	三 十 六	三 十 五	三 十 四	三 十 三	計
	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
	清	清	韓	同	同	清	清	韓	清	韓
	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國
	製	同	同	養	製	同	同	同	同	同
	絲	蠶	絲							

(二) 試驗及調査

本所創立以降明治四十二年ニ至ル二十五ヶ年間ニ於テ施行セル試驗及調査ノ事項ハ五百七十五件ニシテ之ヲ類別スレハ左表ノ如シ

三
一
三
三
一
一
一
三
六
一
三
一
三
一

年次	項目	十七年	十八年	十九年	二十年	二十一年	二十二年	二十三年	二十四年	二十五年	二十六年	二十七年	二十八年	二十九年	三十年	三十一	三十二年	三十三年	三十四年	三十五年
	關スル桑葉ニ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	蠶室ニ關スル試験	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	蠶種ニ關スル試験	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	生理飼育ニ關スル試験	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	蠶病ニ關スル試験	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	消毒ニ關スル試験	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	乾繭貯蔵ニ關スル試験	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	製絲ニ關スル試験	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	其他試験及調査	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

年次	項目	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年	計
	蠶種ニ關スル試験	1	1	1	1	1	1	1	9
	蠶室ニ關スル試験	1	1	1	1	1	1	1	6
	生理飼育ニ關スル試験	1	1	1	1	1	1	1	6
	蠶病ニ關スル試験	1	1	1	1	1	1	1	6
	消毒ニ關スル試験	1	1	1	1	1	1	1	6
	乾繭貯蔵ニ關スル試験	1	1	1	1	1	1	1	6
	製絲ニ關スル試験	1	1	1	1	1	1	1	6
	其他試験及調査	1	1	1	1	1	1	1	6
	計	1	1	1	1	1	1	1	9

以上ノ事蹟ハ毎年刊行ノ報告ニ依リ或ハ講習講話ニ依リテ一般當業者ニ周知セシメ以テ斯業ノ改善進歩ニ資セリ

(三) 蠶種配布

本所ハ内外國各種蠶兒ニ就キ其優劣得失ヲ調査シ最モ善良ト認メタル種類ヲ撰擇シ原種トシテ之ヲ蠶種製造者學校講習所試験場及傳習所ニ配布シ良種ノ普及ト種類ノ統一トヲ圖レリ
今去明治二十九年以來昨四十二年ニ至ル十四年間ニ配付セル蛾數ヲ示セハ左ノ如シ

年次	蛾數
二十九年	10600

三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	四	四	四	
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一	一	一	一	
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	
合	計												
一〇八、六五七	三四、六三〇	六五、五八〇	二八、一六〇	三四、七〇七	二五、五〇二	六七、九五九	四〇、七四五	三六、九五二	四六、八九四	四四、九七〇	二九、三五三	三七、三九八	六二、一〇七

(四) 巡回講話

試驗講習其他常務ノ傍ラ時々所員ヲ各地ニ派シ試験ニ依リテ得レル成績其他蠶絲業ニ關シ必要ナル事項ノ講話ヲナサシメ或ハ短期講習會ノ講師トシテ派遣セルモノ少カラズ近時各地方農會同業組合若クハ農會官廳ヨリ技術官ノ派遣ヲ請求スルモノ甚ダ多ク最近數年間ニ於ケル實績ニ徴スルニ請求件數毎

年百餘ノ多キニ達セリ是等ニ對シテハ所務ノ許ス限リ其請求ヲ客レ講習又ハ講話ヲ爲サシメ斯業改良ノ思想ヲ發達セシメ且ツ實行ヲ促シツ、アリト雖モ其派遣數ハ漸ク請求數ノ半ハニ過キサレハ本所ノ甚タ遺憾トスル所ナリ

(五) 質問應答及鑑定

營業者ニシテ蠶絲業上ニ關シ疑義アルトキハ隨意質問スルノ便宜ヲ得セシメ又機械器具藥品ニ對シテハ其適否精粗ノ如何ニ對シ鑑定ヲ與ヘツ、アリ其件數ハ比年増加シテハヤ毎年數百件ノ多キニ達スルニ至レリ

(六) 報告刊行

試驗成績應用ノ普及ハ即チ試驗事業終局ノ目的ニシテ最モ緊要ナルコトナリトス故ニ大所ハ毎年行フ處ノ試驗調査並ニ講習其他ノ事蹟ヲ印刷ニ付シテ府縣官廳常設團體若クハ營業者ニ配布シツ、アリ而シテ報告トシテ刊行セルモノ四十五此冊致略四萬五千六百ニシテ其他必要ニ應シ臨時ニ刊行シ汎ク營業者ニ配布セルコト前後十五回ニシテ共冊致略十五萬三百五十冊ニ上レリ

第六章 土地並ニ營造物

(一) 土地

本所ニ於テ現時使用セル土地ハ總計四万六千四百五十二坪八合ニシテ内敷地ハ一万〇五百七十坪一合五夕桑園ハ三万五千八百八十二坪六合五夕ナリ之ヲ詳記スレハ左ノ如シ

東京府北豊島郡瀧野川村大字西ヶ原

敷地 八千五百六十八坪六合五夕

桑園 四千〇四十四坪

合計 壹万二千六百七十二坪六合五夕

東京府南足立郡江北村大字鹿濱新田

桑園 七千八百五十六坪六合五夕

東京府北豊島郡瀧野川村大字瀧野川(三軒屋)

桑園 三千七百五十壹坪

東京府北豊島郡巢鴨村字庚申塚

敷地 壹百坪

桑園 六千八百三拾壹坪

合計 六千九百三拾壹坪

長野縣松本市字四ッ谷

敷地 二千九百四十一坪五合

桑園 一万二千三百六十坪

合計 壹万五千三百〇壹坪五合

(二) 營造物

本所ニ屬スル營造物ハ總計七十五棟ニシテ其坪數ハ二千五百五十六坪九合二夕一才ナリ之ヲ詳記スレハ左ノ如シ

西ヶ原 六十六棟 二千二百七拾九坪九合三夕七才

庚申塚 二棟 三十七坪

松本 十五棟 四百拾七坪二合八夕六才

第七章 四十三年度試驗項目

本年度ニ於テ施行セントスル試驗ノ項目左ノ如シ

(一) 試驗部試驗項目

- 一、桑樹種類試驗(繼續)
- 一、桑樹栽植試驗(繼續)
- 一、桑樹肥料試驗(繼續)
- 一、桑樹ノ肥料ト土質トノ關係試驗(繼續)
- 一、滿俺及鉄塊類ノ桑樹刺製作用ニ關スル試驗(繼續)
- 一、桑樹ノ紋羽病試驗(繼續)
- 一、桑樹害蟲ニ關スル調査(繼續)
- 一、害蟲驅除劑ニ關スル試驗
- 一、桑樹凍害試驗(繼續)
- 一、蠶ノ血液ニ關スル研究(繼續)
- 一、桑葉ノ成分ト蠶兒ノ發育及繭質ト關係試驗(繼續)
- 一、蠶ノ種類試驗
- 一、春蠶原蠶種選拔試驗
- 一、蠶ノ飼育試驗
- 一、化性試驗(繼續)

- 一、絶食試驗
- 一、上簇試驗(繼續)
- 一、採種法試驗(繼續)
- 一、産卵試驗(繼續)
- 一、催青試驗(繼續)
- 一、煙草中毒試驗(繼續)
- 一、煙害桑葉給與試驗
- 一、蠶ノ種類ト蠶病トノ關係試驗(繼續)
- 一、微粒子病試驗(繼續)
- 一、膿病試驗(繼續)
- 一、硬化病試驗(繼續)
- 一、天蠶柞蚕ノ病害調査(繼續)
- 一、蠶蛆試驗(繼續)
- 一、消毒試驗
- 一、野蠶ニ關スル調査

- 一、生繭ノ蒸熱ニ關スル調査(繼續)
- 一、乾繭試驗
- 一、乾繭器試驗(繼續)
- 一、各蠶種繭纖維ノ比重調査
- 一、春夏秋蠶繭ノ化學的研究
- 一、春蠶繭ト秋蠶繭トノ絲質比較試驗
- 一、煮繭方法試驗
- 一、直線式繰絲試驗(繼續)
- 一、製絲用水曝露試驗
- 一、野蠶繭製絲試驗(繼續)

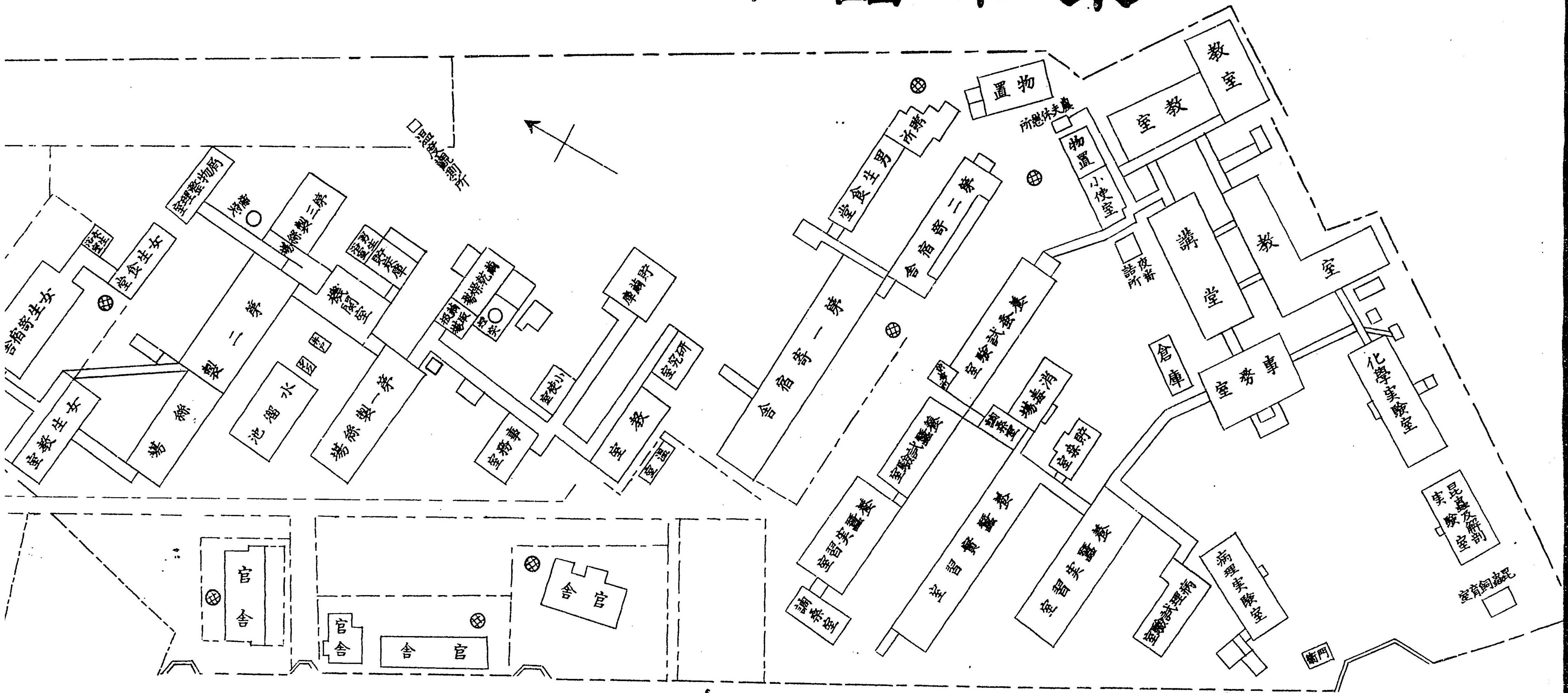
(二) 夏秋蠶部試驗項目

- 一、桑樹種類試驗
- 一、桑樹植付粗密試驗
- 一、桑樹刈取並ニ摘桑試驗

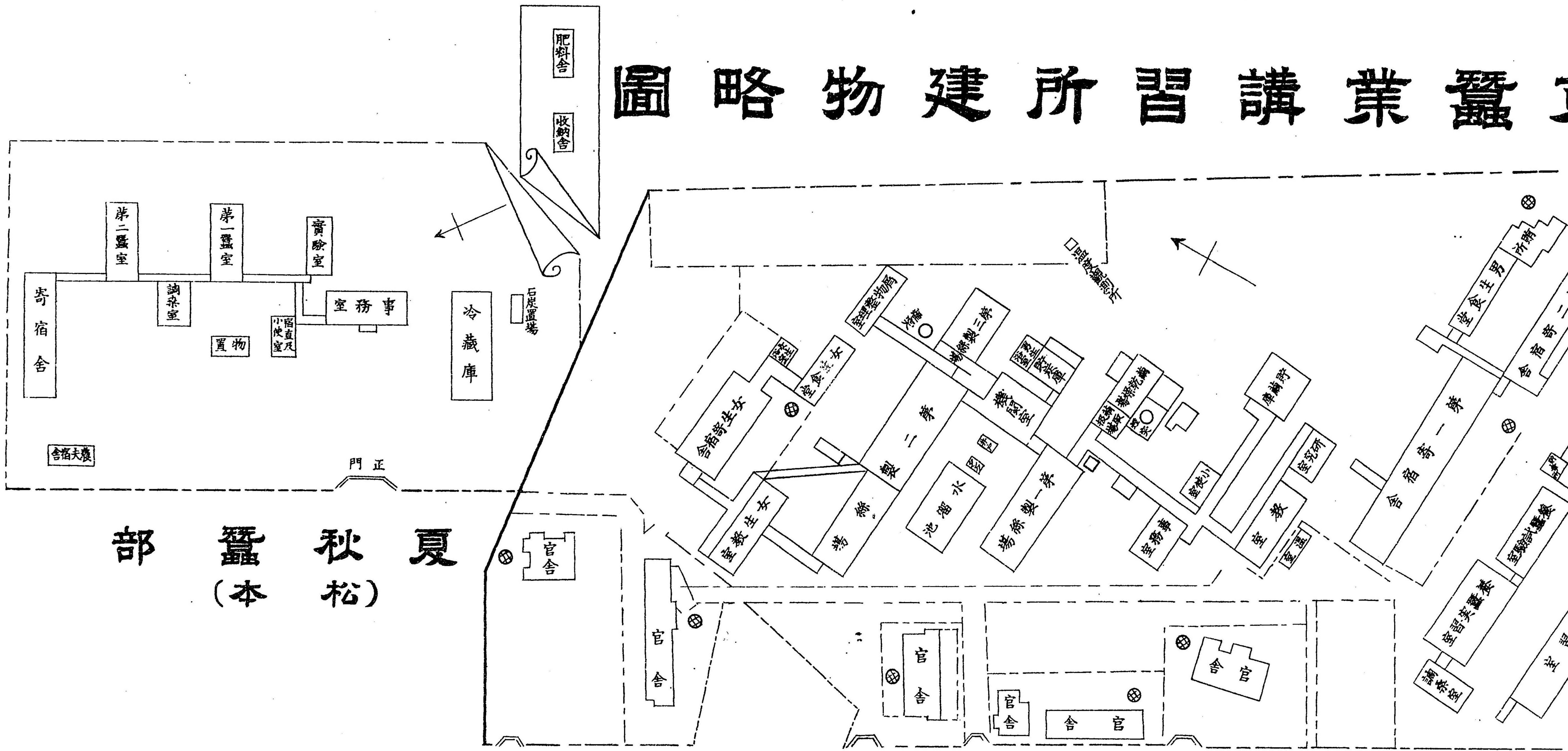
- 一、仕立法試驗
- 一、耕耘試驗
- 一、施肥時期試驗
- 一、施肥量試驗
- 一、肥料種類試驗
- 一、三要素ト桑樹發育トノ關係試驗
- 一、秋蠶生種原蠶種採製試驗
- 一、生種原蠶飼育試驗
- 一、化性變化ノ研究(繼續)
- 一、生種冷藏試驗
- 一、蠶卵保護溫度試驗
- 一、生種ト黑種トノ比較試驗
- 一、入穴時期ト胚子發育トノ關係調査
- 一、出庫時期ト胚子發育トノ關係調査
- 一、貯藏溫度ト胚子發育トノ關係調査

- 一、風穴蠶種ノ不發生卵ノ原因調査(繼續)
- 一、風穴蠶種ノ貯藏溫度ト貯藏期間ニ關スル試驗
- 一、風穴蠶種ノ貯藏溫度ノ變化ニ關スル試驗(繼續)
- 一、風穴蠶種ノ低溫接觸期間ニ關スル試驗

東 京 蠶 業 講 習 所 建 物 略 圖



蠶業講習所建物略圖



夏秋蠶部 (本)

明治四十三年五月五日印刷
同 年五月七日發行

東京蠶業講習所

東京府下北豊島郡瀧野川村大字
西ヶ原千〇貳拾八番地

印刷者 堀 作 太 郎

東京市下谷區練塀町六十八番地

印刷所 萬 陽 堂

明治四十三年十一月

明治四十三年度
東京蠶業講習所一覽

265
448

東京蠶業講習所一覽

目次

第一章	沿革	一
第二章	法令	四
	一、官制	四
	二、分課規程	六
	三、蠶種配布規程摘要	六
第三章	講習二關スル規程	七
	一、講習規程摘要	七
	二、研究生規程摘要	一
	三、留學生規程摘要	一
	四、製絲短期講習規程摘要	十
第四章	職員	十三
第五章	事蹟	十六

昭和四十三年十一月二十四日
 交内

一、講習	十六頁
二、試験及調査	二十二頁
三、蠶種配布	二十四頁
四、巡回講話	二十五頁
五、質問應答及鑑定	二十五頁
六、報告刊行	二十六頁
第六章 土地並ニ營造物	二十六頁
一、土地	二十六頁
二、營造物	二十七頁
第七章 四十三年度試験項目	二十八頁
一、試験部試験項目	二十八頁
二、夏秋蠶部試験項目	三十一頁

東京蠶業講習所一覽

第一章 沿革

明治以降政府ニ於テ蠶業上ニ關スル試験及傳習ノ事業ヲ經營セルハ明治七年三月内務省勸業寮所轄内藤新宿試験場内ニ蠶業試験掛ヲ設ケタルヲ以テ嚆矢トス、尋テ蠶事學校設置ノ計畫アリシモ同十二年五月ニ至リ該試験場廢止セラレタル爲メ此事遂ニ成ラス以來中央政府ハ蠶絲業ニ關スル試験傳習ノ事業ヲ中絶スルニ至レリ、然ルニ明治ノ初年伊佛諸邦ノ蠶業ニ害毒ヲ逞セル微粒子病ハ當時本邦ニ於テモ亦其慘禍ヲ被ラントスルノ兆アルヲ發見シタルニ依リ農商務省ハ之カ撲滅豫防ノ方法ヲ講究スルノ必要ヲ認メ明治十七年四月東京府麹町區内山下町ニ蠶病試験場ヲ設ケ微粒子病ニ關スル各種ノ試験ニ着手セリ之レ即チ蠶業講習所ノ起源ナリトス

明治十九年ニ至リ以上三ヶ年間ノ試験成績ニ依リ本邦養蠶ノ微粒子病ノ爲メ收穫ヲ減殺セラル、コト頗ル夥多ナルヲ知レルノ結果此年九月ヲ以テ蠶種検査規則ノ發布ヲ見ルニ至レリ而シテ之カ検査員養成ノ必要ヲ生シ同年十月地ヲ東京府下北豊島郡西ヶ原ニ移シ該検査法ノ傳習ヲ開始シ傍ラ蠶業ニ關スル一般學術ノ傳習ヲ行ヒ尙養蠶上一般ノ學理及實地ノ試験研究ヲ行フコト、シ二十年四月名ヲ蠶業試

驗場ト改稱セリ

明治二十三年ニ至リ傳習ノ程度ヲ高メ學期ヲ延長シ地方養蠶教師又ハ巡回教師タルヘキモノヲ養成シ以テ世ノ進運ニ協ハンコトニ勉メタリ

明治二十四年三月農務局假試驗場蠶事部ト改稱セラレタリシカ同二十六年農事試驗場官制發布セララル、ニ及ヒ本部ハ舊ニ復シ蠶業試驗場ト稱スルニ至レリ

蠶業試驗場ハ上記ノ如ク去ル十七年蠶病試驗場トシテ創設セラレシ以來常ニ斯業ノ發達ト變遷ニ鑑ミ數回其組織ト設備ト改善ヲ行ヒ以テ之カ進運ノ利導ニ勉メタリト雖宇内ニ於ケル蠶業進歩ノ大勢ハ駸々トシテ止マズ斯業ニ關スル試驗及傳習事業擴進ノ必要ハ朝野ハ士ノ認識スル所トナリ遂ニ明治二十九年三月十八日蠶業講習所官制ノ發布ヲ見ルニ至レリ茲ニ於テ前ノ蠶業試驗場ヲ改メテ蠶業講習所トナシ大ニ其規模ヲ擴張シ設備ヲ整ヒ且更ニ巡回講話、蠶種配付、質問應答等ノ業務ヲ新設シ以テ直接當業者ヲ指導裨益スルノ方法ヲ講シ又傳習ハ其程度ヲ高メ本科別科ノ二トシ且卒業生ニシテ進ンテ深遠ノ學術ヲ脩メントスル者ノ爲メ別ニ研究科ヲ設クル等各種ノ事業益々廣汎深遠ヲ加フルニ至レリ然レトモ本邦蠶絲業進歩ノ趨勢ハ尙之ヲ以テ足レリトセス三十二年四月京都府下ニ同程度ノ蠶業講習所設置サレ本所ハ同年六月ヨリ東京蠶業講習所ト改稱シ東西相應シテ斯業ノ擴進改善ニ勉ムルコト、ナレリ

爾來本邦蠶業ノ進歩ハ頗ル長足ナルモノアリテ殊ニ夏秋蠶業ノ發達極メテ急速ナルニ從ヒ發病蔓延ノ弊漸ク多ク消毒法普及ノ必要甚ダ切ナルヲ認メ此等指導獎勵ノ任ニ當ルヘキ者ヲ養成スルノ目的ヲ以テ三十四年ヨリ三ヶ年間毎年一回各府縣ヨリ講習生五十名宛ヲ募集シ蠶病消毒講習ヲ開キ同法ニ關スル學理實施ノ講習ヲナセリ

斯ノ如ク本所ハ時勢ノ變遷ニ從ヒ其組織并ニ設備ノ改善ニ怠ラサリシト雖モ本邦蠶絲ノ需要國タル歐米諸國ノ機業界ハ其進歩著シク益々精良ナル原料ヲ要望スルコト急ナルニ鑑ミ本邦製絲改善ノ緊要ナルヲ認メ明治三十五年ニ至リ更ニ其規模ヲ擴張シ製絲業ニ關スル種々ノ試驗研究ニ從事スルト共ニ事業指導誘掖或ハ經營ノ任ニ當ル者ヲ養成スルノ目的ヲ以テ講習規程ヲ改正シ特ニ製絲ノ講習科ヲ設ケ男生ノ外女生ヲモ募集シ以テ直接工女指導ノ任ニ當ル者ヲ養成スル等本所ノ業務ハ益々擴張整理ノ緒ニ着キタリ又三十八年五月ニ至リ斯業進歩ノ狀勢ニ鑑ミ養蠶部別科ヲ廢シ本科男生ノ講習柱皮ヲ高メ其學期ヲ三ヶ年ニ延長セリ

晩近夏秋蠶業ノ發達ハ愈急ニシテ其發展上試驗研究ヲ要スル事項頗ル多キヲ加ヘシヲ以テ規模ヲ擴張シテ四十二年三月本所ニ夏秋蠶部ノ一部ヲ新設シ之レヲ長野縣松本市ニ置キ專ラ夏秋蠶ニ關スル試驗研究ニ從事スルコト、ナレリ然ルニ時勢ノ進運ハ更ニ本所ノ組織ヲ改ムルノ必要ヲ生ジ四十二年四月從來ノ養蠶部、製絲部、夏秋蠶部報告課及庶務課ヲ改メテ講習部、試驗部、夏秋蠶部及庶務課ト爲ス

ニ至レリ

是ヨリ先キ蠶病消毒ノ普及ニ伴ヒ「フォルマリン」ノ需用大ニ増加セルモ之レカ良否ノ識別困難ニシテ
往々不良品ノ爲メ消毒効果ヲ完フスルヲ能ハサルモノアルヲ認メ三十九年九月及四十年九月ノ二回短
期講習ヲ開始シ檢定法ノ講習ヲ行フテ技術者ヲ養成シ又地方製絲場ニ於ケル監督指導者ニ對シ學理ノ
一般ヲ諒得セシムルハ斯業ノ改良ヲ圖ル上ニ於テ甚タ緊要ナルヲ認メ四十年ヨリ毎年二月短期講習ヲ
開設シテ製絲法其他必要ナル學科ヲ教授セリ

第二章 法令

(一) 官制

勅令第二十八號

明治二十九年
三月十八日

三十二年三月三十日勅令第八十九號ヲ以テ改正
三十五年三月二十七日勅令第四百九號ヲ以テ改正
三十九年三月二十九日勅令第四百九號ヲ以テ改正
四十二年六月二十二日勅令第四百七號ヲ以テ改正
四十二年三月二十一日勅令第七十六號ヲ以テ改正
四十三年三月二十六日勅令第八十三號ヲ以テ改正

第一條 蠶業講習所ハ二箇所トス農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 蠶絲業ニ關スル講習

二 蠶絲業ニ關スル試験及調査

三 巡回講話

四 蠶種配布

五 質問應答

第二條 蠶業講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師

舍監

技手

書記

第三條 所長ハ一人技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第五條 舍監ハ技師技手又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ講習生ノ取締ヲ掌ル

第六條 技手ハ上官ノ命ヲ承ケ所務ニ従事ス

第七條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八條 蠶業講習所ヲ通シテ專任技師二十二人專任技手二十一人專任書記九人ヲ以テ定員トス

第九條 蠶業講習所ノ位置及名稱ハ農商務大臣之ヲ定ム

(二) 分課規程

文第七五號 明治四十三年三月三十一日

- 第一條 東京蠶業講習所ニ講習部、試験部、夏秋蠶部及庶務課ヲ置ク
- 第二條 講習部ニ於テハ養蠶製絲ニ關スル學理及技術ノ講習並講話ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第三條 試験部ニ於テハ養蠶製絲ニ關スル試験及調査、質問應答並蠶種ノ配付ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第四條 夏秋蠶部ニ於テハ夏秋蠶ニ關スル試験及調査講話並質問應答ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第五條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 文書ノ接受、發送及保管ニ關スル事項
 - 二 報告書及圖書等ニ關スル事項
 - 三 會計ニ關スル事項
 - 四 他部ノ主掌ニ屬セサル事項

(三) 蠶種配布規則摘要

農商務省令第五號

明治二十九年五月八日

(三十年五月一日省令第三號ヲ以テ第七條追加)
(三十五年十一月十九日省令第二十二號ヲ以テ改正)

第一條 蠶業講習所ニ於テ製造スル蠶種ハ原種トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限り無代價ニテ配付ス

- 一 蠶病豫防法ニ依ル蠶種製造者
- 二 蠶絲業ニ關スル學校、講習所、傳習所又ハ試験場
- 第二條 蠶種ノ配付ヲ請求セントスル者ハ管轄道府縣廳ノ證明ヲ得テ毎年四月十五日迄ニ種名及蛾數ヲ明記シ所轄蠶業講習所ニ出願スヘシ
- 第三條 蠶種ノ配付ハ請求者一名ニ付五百蛾以內トス
- 第四條 蠶種ノ配當ハ出願ノ順序ニ依リ之ヲ定ム

第三章 講習ニ關スル規程

(一) 講習規程摘要

講習規程

明治二十九年五月二十六日

(三十二年六月二十二日改正、三十五年六月二十四日改正)
(三十八年四月二十四日改正、四十一年七月五日改正)

- 第一條 本所ハ養蠶及製絲ニ關スル學理及技術ヲ講習ス
- 第二條 本所ニ養蠶科及製絲科ヲ置キ養蠶科ニ本科、製絲科ニ本科及別科ヲ置ク

第三條 講習生ノ定員左ノ如シ

一、養蠶科

本科 (男生)

六十名

二、製絲科

本科 (男生)

六十名

本科 (女生)

二十名

別科 (女生)

四十名

第四條 講習期限左ノ如シ

養蠶科

本科

三年

製絲科

本科 (男生)

三年

本科 (女生)

二年

別科

十箇月

第五條 講習生ノ學費ハ自辨トス但シ講習科ヲ徴収セス

第六條 講習生ハ男生ニ在リテハ本所所定ノ制帽及制服ヲ、女生ニ在リテハ制服ヲ着用スヘシ

第七條 講習生ハ所内ニ寄宿スルモノトス但シ本所ノ都合ニ依リ通學ヲ命シ又ハ講習生ノ願ニ依リ通

學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十一條 入學志願者ハ品行方正ニシテ在學中家事ノ係累ナク第十二條ノ規定ニ該當スル者ニシテ左

ノ資格ヲ有スル者タルヘシ

一、養蠶科

本科

一 滿十七年以上ノ者

一 中學卒業生若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

二、製絲科

本科 (男生)

一 滿十七年以上ノ者

一 中學卒業生若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

本科 (女生)

一 滿十八年以上ノ者

- 一 二箇年以上製絲ニ從事シタル者
- 一 高等小學卒業生若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

別 科

- 一 滿二十年以上ノ者
- 一 三箇年以上製絲ニ從事シ優等工女タリシ者
- 一 尋常小學卒業生若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

第十二條 入學志願者ハ身體強壯ニシテ左記ノ各項ニ該當セサル者タルヘシ

- 一 結核、咯血、癩狂、癩痢、癩病、梅毒、傳染性皮膚病、其他傳染性疾患アル者又ハ心臟、肺臟、助膜ノ著シキ疾患、助膜炎後ノ障害甚シキ者其他動作ニ堪ヘサル疾患アル者
- 二 發育不全ニシテ薄弱ナル者、高度ノ脂肪腫滿ナル者、四肢ノ著シキ彎曲若ハ不同又ハ甚シク筋肉薄弱ナル者、手指ノ缺損若ハ畸形ナル者、下肢靜脈ノ怒張著シキ者、又ハ動靜脈瘤等總テ動作ニ堪ヘサル者
- 三 精神ノ異狀、言語障害アル者又ハ甚シキ啞吃アル者
- 四 片眼若ハ兩眼ノ視力妨ケアル者又ハ色盲ナル者

但シ養蠶科ニ在リテハ眼鏡ヲ用ヤテ此視力ヲ調節シ得ル者、製絲科ニ在リテハスネルン氏

ノ視力表ノ三十號(九號)ヲ二十呎(六メートル)ノ距離ニ於テ明視シ得ル者、此限ニ在ラス
五 片耳若ハ兩耳ノ聾ナル者又ハ低聲ヲ聴取シ難キ者

(二) 研究生規程摘要

第一條 蠶業講習所卒業生(元農務局蠶業試驗場卒業生ヲ含ム)ニシテ既修ノ學科ニ就キ更ニ研究ヲ爲サント欲スル者ハ本規程ノ定ムル所ニ依リ研究生ト爲ルコトヲ得

第二條 研究生ノ定員左ノ如シ

養蠶科	拾 名
製絲科	貳拾 名

第三條 研究ノ期限ハ男生ニ在リテハ六箇月以上二箇年以内女生ニ在リテハ一箇年以内トス
但シ研究上必要アリト認ムルモノニ付テハ所長ハ其期限ノ伸縮ヲ許可スルコトアルヘシ

第四條 研究生タラント欲スル者ハ研究ノ事項及期限ヲ明記シタル願書ニ履歷書ヲ添付シテ講習所ニ差出スヘシ所長ハ詮議ノ上之ヲ許否ス

(三) 留學生規程摘要

第一條 外國人ニシテ蠶業講習所ノ講習ヲ受ケムト欲スル者ハ本規程ノ定ムル所ニ依リ留學生ト爲ルコトヲ得

第二條 入學志願者ハ志望ノ學科ヲ明記シタル願書ニ履歷書ヲ添付シ本邦駐劄公使ヲ經テ講習所ニ差出スヘシ所長ハ詮議ノ上之ヲ許否ス

第四條 留學生ニシテ規定ノ學科ヲ習得シタル者ニハ證明書ヲ交付ス

(四) 製絲短期講習規程摘要

第一 製絲短期講習ハ毎年一回東京蠶業講習所内ニ之ヲ開ク

第二 講習生ハ高等小學校卒業生以上ノ學力ヲ有シ五ヶ年以上製絲業ニ從事シ現在勤績セル者トス

第四 講習科目左ノ如シ

- 學科
- 一 製絲法
- 二 殺蛹貯繭法
- 三 工場管理法
- 四 機關取扱

第四章 職員

所長	技師	本多岩次郎
(兼)	技師 講習部長	辻暢太郎
(兼)	技師 農事試驗場技師	上田榮次郎
	技師 <small>兼特許局審査官 試驗部長</small>	林驒作
	技師	石居一郎
	技師	中村雅次郎
	技師 夏秋蠶部長	十時雄次郎
	技師 兼舍監	土屋泰
(兼)	技師 農商務技師	明石弘
	技師 兼舍監	町田穰
	技師	肥後俊彦
	技師	横田長太郎
(兼)	技師	荒木武雄
	技師	竹内秀雄

技師	森繁太郎
技手	三谷徹
技手	松下憲三朗
技手	小松豐作
技手	鈴木英亮
技手	岩淵平介
技手	坪井啓作
技手	高橋伊勢次郎
技手	霜新八郎
技手	水井壽一郎
技手	岡戸一榮
技手	丹羽四郎
技手	小田中染十郎
書記	本間登人
書記	庶務課長
書記	戀田六造

書記	小田切昌行
書記	和田菊松
書記	海老原信七郎
書記	吹井健三郎
全	圓中文助
全	山越八郎
全	坂本家則
全	笹原勝治
全	野村彦太郎
全	大石和三郎
全	齋藤孝
全	淺野肇
全	松村吉則
全	井上柳梧
全	鈴木梅太郎

東京帝國大學農科大學教授
農學博士

去ル明治十九年以來本所ヲ卒業セル者合計二千九十四名ニシテ之ニ蠶種検査法檢定試験及第者四拾九

(一) 講習

第五章 事蹟

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
陸軍教授	東京帝國大學農科大學教授	農學博士	農學博士	加賀山辰四郎	廣瀬次郎	上田義雄	石原純	柳澤	田澤秀四郎	田澤秀四郎	田澤秀四郎	田澤秀四郎
				佐々木忠次郎	外山龜太郎	阿部爲八	田中茂穂	ローストレーキ				

名及蠶病消毒法講習生百四拾名「フォルマリン」檢定法講習生三十名製絲短期講習生百四拾名ヲ加フルトキハ其數貳千四百五十六名ナリ此外清韓兩國ノ留學生ニシテ修學セル者三十一名アリ

(一) 卒業生

明治十九年	蠶病試驗場	蠶業講習所本科	三二
二十年	蠶業試驗場	蠶業講習所本科	二七五
二十一年	蠶業試驗場	蠶業講習所本科	二六一
二十二年	蠶業試驗場	蠶業講習所本科	一九六
二十三年	蠶業試驗場	蠶業講習所本科	三四
二十四年	農務局假試驗場蠶事部	蠶業講習所本科	四六
二十五年	蠶業試驗場	蠶業講習所本科	五〇
二十六年	蠶業試驗場	蠶業講習所本科	四〇
二十七年	蠶業講習所本科	蠶業講習所本科	五八
二十八年	蠶業講習所本科	蠶業講習所本科	六一
二十九年	蠶業講習所本科	蠶業講習所本科	六一
三十年	蠶業講習所本科	蠶業講習所本科	五四
三十一年	蠶業講習所本科	蠶業講習所本科	四二

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

計 四 四 四 三
十 十 十 十
二 一 十 九

年年年年年年年年年年年年年年年年年年年年

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同
同同製養同同製養同同製養同同製養同同製養同同

絲蠶 絲蠶 絲蠶
講講 講講 講講
習習 習習 習習
科科 科科 科科
別本本本別本本本別本本本別本本本別本本
科科科科科科科科科科科科科科科科科科科
(女生)(女生)(男生)(女生)(女生)(男生)(女生)(男生)(女生)(男生)(女生)(男生)(女生)(男生)

十九

二、〇九四 三九 一七八 一七四 三二 一四九 一六六 二六八 一一 二七九 二一 一八一 一四

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

三 三 三 三 三 三 三
十 十 十 十 十 十 十
八 七 六 五 四 三 二

年年年年年年年年年年年年年年年年年年年年

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同
製同養製同養製同養製同養製同養製同養製同養

絲蠶 絲蠶 絲蠶 絲蠶 絲蠶 絲蠶 絲蠶
講講 講講 講講 講講 講講 講講 講講
習習 習習 習習 習習 習習 習習 習習
科科 科科 科科 科科 科科 科科 科科
本別本別本別本別本別本別本別本別本別本別
科科科科科科科科科科科科科科科科科科科
(男生)(女生)(女生)(男生)(女生)(男生)(女生)(男生)(女生)(男生)(女生)(男生)(女生)(男生)

十八

一四〇 一八 二六 四 一三 四二 一六 一八 四二 二 四一 二〇 四三 二 三九 四六 五一 四二 五三

退所年次	國	別	修業科別	人員
三十九年	同	國	養	二
三十八年	同	國	同	一
三十七年	同	國	同	一
三十六年	同	國	同	一
三十五年	同	國	同	三
三十四年	同	國	同	一
三十三年	同	國	同	一
三十二年	同	國	同	一
三十一年	同	國	同	一
三十九年	同	國	同	一
三十八年	同	國	同	一
三十七年	同	國	同	一
三十六年	同	國	同	一
三十五年	同	國	同	一
三十四年	同	國	同	一
三十三年	同	國	同	一
三十二年	同	國	同	一
三十一年	同	國	同	一
合計				一四〇

(ハ) 外國留學生

明治二十一年	(口) 蠶種検査法檢定試験及第者	四九名
明治三十四年	(ハ) 蠶病消毒法講習生	四〇名
明治三十五年		五〇名
明治三十六年		五〇名
合計		一四三
明治三十九年	(ニ) 「フォルマリン檢定法講習生」	一六名
明治四十年		一四
合計		三〇
明治三十九年	(ホ) 製絲短期講習生	三六名
明治四十年		三四
明治四十一年		三四
明治四十二年		三六
合計		一四〇

計	四十二年	清 清 韓	國 國 國	製 同 同	絲	三 三 三 一
---	------	-------	-------	-------	---	---------

(二) 試驗及調査

本所創立以降明治四十二年ニ至ル二十六ケ年間ニ於テ施行セル試驗及調査ノ事項ハ五百八十六件ニシテ之ヲ類別スレハ左表ノ如シ

十七年	十八年	十九年	二十年	二十一年	二十二年	二十三年	二十四年	二十五年
柔樹桑葉ニ關スル試験	一	一	一	一	一	一	一	一
蠶室ニ關スル試験	一	一	一	一	一	一	一	一
蠶種ニ關スル試験	二	三	四	二	四	三	四	四
生理飼育ニ關スル試験	三	二	一	四	一	五	六	三
蠶病ニ關スル試験	二	一	二	二	二	一	一	一
消毒ニ關スル試験	一	一	一	一	一	一	一	一
乾貯貯菌ニ關スル試験	一	一	一	一	一	一	一	一
製絲ニ關スル試験	一	一	一	一	一	一	一	一
其他試験及調査	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一六	一四	一五	一四	一五	一四	一五	一六

二十六年	二十七年	二十八年	二十九年	三十年	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五年	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	計
九六	三五	三七	四一	四三	四八	五〇	五五	六一	六六	七〇	七三	七五	七八	八二	八六	九一	五八六
六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一〇	三五	三一	二五	一六	〇八	六七	五二	三五	二	一	一	一	一	一	一	一	一
一二	〇一	六	一五	四二	四六	六六	六六	六七	七二	九三	一	一	一	一	一	一	一
六八	二	三	六	一四	一三	四三	一一	四八	二七	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四六	一	一	二	三	〇	一	三	五	三	二	四	二	一	三	四	三	一
六七	一	二	五	三	九	九	八	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六七	一	二	一	二	三	三	二	五	三	四	五	五	五	六	四	四	五
五八六	一一	二	三	二	一	六	三	九	一	六	三	九	四	一	二	八	二

以上ノ事蹟ハ毎年刊行ノ報告ニ依リ或ハ講習講師ニ依リテ一般當業者ニ周知セシメ以テ斯業ノ改善進歩ニ資セリ

(三) 蠶種配布

本所ハ内外國各種蠶兒ニ就キ其優劣得失ヲ調査シ最モ善良ト認メタル種類ヲ撰擇シ原種トシテ之ヲ蠶種製造者學校講習所試驗場及傳習所ニ配布シ良種ノ普及ニ種類ノ統一トヲ圖レリ
今去明治二十九年以來昨四十二年ニ至ル十四年間ニ配付セル蛾數ヲ示セハ左ノ如シ

年	度	蛾數	
二	十	九	二〇、六〇〇
三	十	一	一〇八、六五七
三	十	二	三四、六三〇
三	十	三	六五、五八〇
三	十	四	二八、一六〇
三	十	五	三四、七〇七
三	十	六	二五、五〇二
三	十	七	六七、九五九
三	十	八	四〇、七四五
三	十	九	三六、九五二
三	十	十	四六、八九四
四	十	十	四四、九七〇

四	十	一	年	二九、三五三
四	十	二	年	三七、三九八
合	計			六二二、一〇七

(四) 巡回講話

試験講習其他常務ノ傍ラ時々所員ヲ各地ニ派シ試験ニ依リテ得タル成績其他蠶絲業ニ關シ必要ナル事項ノ講話ヲナサシメ或ハ短期講習會ノ講師トシテ派遣セルモノ少カラズ近時各地方農會同業組合若クハ府縣官廳ヨリ技術官ノ派遣ヲ請求スルモノ甚ダ多ク最近數年間ニ於ケル實績ニ徴スルニ請求件數毎年百餘ノ多キニ達セリ是等ニ對シテハ所務ノ許ス限リ其請求ヲ容レ講習又ハ講話ヲ爲サシメ斯業改良ノ思想ヲ發達セシメ且ツ實行ヲ促シツ、アリト雖モ其派遣數ハ漸ク請求數ノ半ハニ過キサハ本所ノ甚タ遺憾トスル所ナリ

(五) 質問應答及鑑定

營業者ニシテ蠶絲業上ニ關シ疑義アルトキハ隨意質問スルノ便宜ヲ得セシメ又機械器具藥品ニ對シテハ其適否精粗ノ如何ニ對シ鑑定ヲ與ヘツ、アリ其件數ハ比年増加シテ今ヤ毎年數百件ノ多キニ達スルニ至レリ

(六) 報告刊行

試験成績應用ノ普及ハ即チ試験事業終局ノ目的ニシテ最モ緊要ナルコトナリトス故ニ本所ハ毎年行フ處ノ試験調査並ニ講習其他ノ事蹟ヲ印刷ニ付シテ府縣官廳常設團體若クハ營業者ニ配布シツ、アリ而シテ報告トシテ刊行セルモノ四十五此冊數略四萬五千六百ニシテ其他必要ニ應シ臨時ニ刊行シ汎ク營業者ニ配布セルコト前後十五回ニシテ其冊數略十五萬二千五百五十冊ニ上レリ

第六章 土地並ニ營造物

(一) 土地

本所ニ於テ現時使用セル土地ハ總計四万六千四百五十二坪八合ニシテ内敷地ハ一万〇五百七十坪一合五夕桑園ハ三万五千八百八十二坪六合五夕ナリ之ヲ詳記スレハ左ノ如シ

東京府北豊島郡瀧野川村大字西ヶ原

敷地	八千五百六十八坪六合五夕
桑園	四千〇四十四坪
合計	壹万二千六百一十二坪六合五夕

東京府南足立郡江北村大字鹿濱新田

桑園	七千八百五十六坪六合五夕
----	--------------

東京府北豊島郡瀧野川村大字瀧野川(三軒屋)

桑園	三千七百五十壹坪
----	----------

東京府北豊島郡巢鴨村字庚申塚

敷地	壹百坪
桑園	六千八百三拾壹坪
合計	六千九百三拾壹坪

長野縣松本市字四ッ谷

敷地	二千九百四十一坪五合
桑園	一万二千三百六十坪
合計	壹万五千三百〇壹坪五合

(二) 營造物

本所ニ屬スル營造物ハ總計七十五棟ニシテ其坪數ハ二千五百五十六坪九合二夕一才ナリ之ヲ詳記スレ

ハ左ノ如シ

西ヶ原	六十六棟	二千二百七十九坪九合三夕七才
庚申塚	二棟	三十七坪
松本	十五棟	四百拾七坪二合八夕六才

第七章 四十三年度試験項目

本年度ニ於テ施行セントスル試験ノ項目左ノ如シ

(一) 試験部試験項目

- 一 桑樹種類試験(繼續)
- 一 桑樹栽植試験(繼續)
- 一 桑樹肥料試験(繼續)
- 一 桑樹肥料ト土質トノ關係試験(繼續)
- 一 滿俺及鉄鹽類ノ桑樹刺製作用ニ關スル試験(繼續)
- 一 桑樹ノ紋羽病試験(繼續)
- 一 桑樹害蟲ニ關スル調査(繼續)

- 一 害蟲驅除劑ニ關スル試験
- 一 桑樹凍害試験(繼續)
- 一 蠶ノ血液ニ關スル研究(繼續)
- 一 桑葉ノ成分ト蠶兒ノ發育及繭質ト關係試験(繼續)
- 一 蠶ノ種類試験
- 一 春蠶原蠶種選抜試験
- 一 蠶ノ飼育試験
- 一 化性試験(繼續)
- 一 絶食試験
- 一 上簇試験(繼續)
- 一 採種法試験(繼續)
- 一 産卵試験(繼續)
- 一 催青試験(繼續)
- 一 煙草中毒試験(繼續)
- 一 煙害桑葉給與試験

- 蠶ノ種類ト蠶病トノ關係試驗(繼續)
- 微粒子病試驗(繼續)
- 膿病試驗(繼續)
- 硬化病試驗(繼續)
- 天蠶柞蠶ノ病害調査(繼續)
- 蠶蛆試驗(繼續)
- 消毒試驗
- 野蠶ニ關スル調査
- 生繭ノ蒸熱ニ關スル調査(繼續)
- 乾繭試驗
- 乾繭器試驗(繼續)
- 各蠶種繭纖維ノ比重調査
- 春夏秋蠶繭ノ化學的研究
- 春蠶繭ト秋蠶繭トノ絲質比較試驗
- 煮繭方法試驗

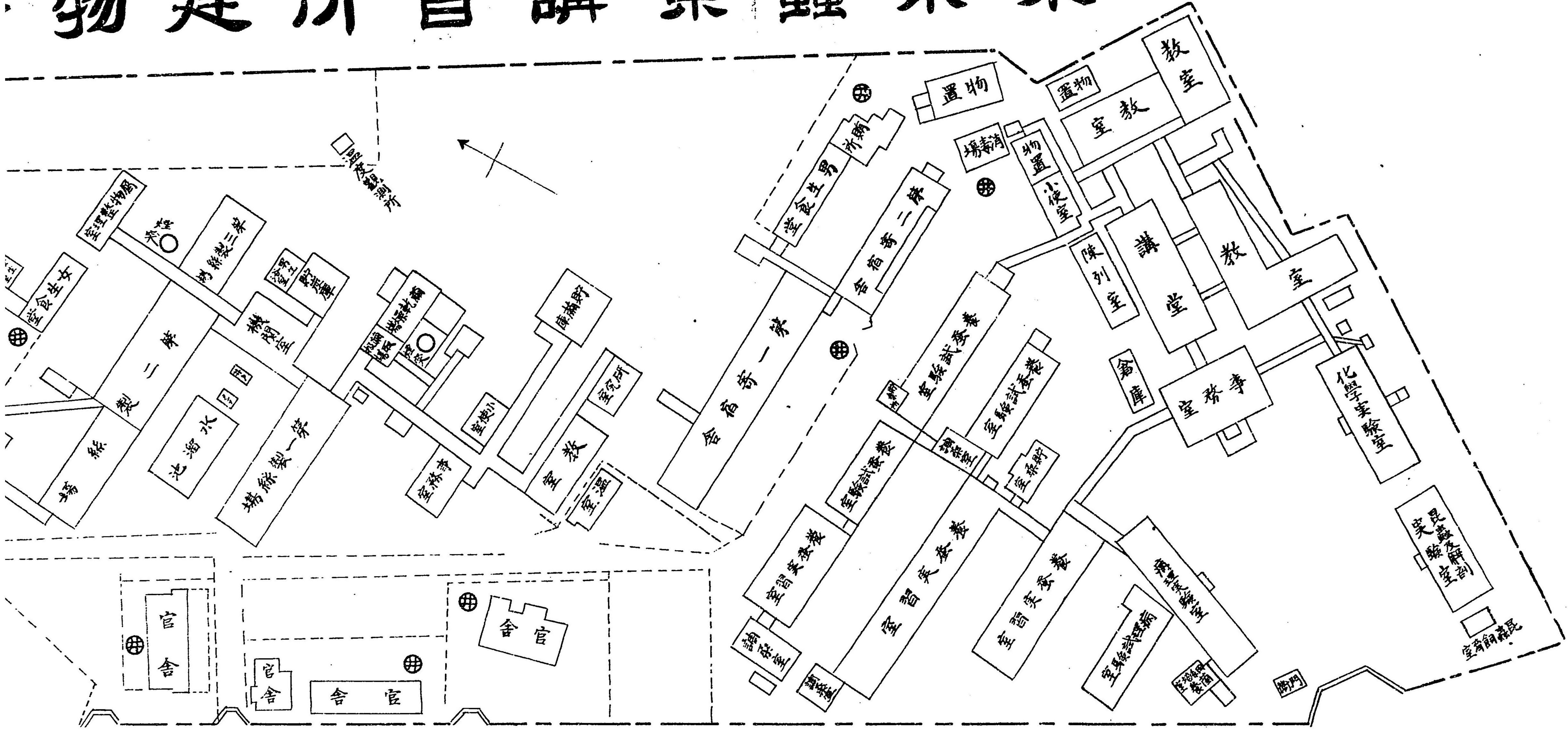
- 直線式繰絲試驗(繼續)
- 製絲用水曝露試驗
- 野蠶繭製絲試驗(繼續)

(二) 夏秋蠶部試驗項目

- 桑樹種類試驗
- 桑樹植付粗密試驗
- 桑樹刈取並ニ摘桑試驗
- 仕立法試驗
- 耕耘試驗
- 施肥時期試驗
- 施肥量試驗
- 肥料種類試驗
- 三要素ト桑樹發育トノ關係試驗
- 秋蠶生種原蠶種採製試驗

- 一 生種原蠶飼育試験
- 一 化性變化ノ研究(繼續)
- 一 生種冷蔵試験
- 一 蠶卵保護溫度試験
- 一 生種ト黑種トノ比較試験
- 一 入穴時期ト胚子發育トノ關係調査
- 一 出庫時期ト胚子發育トノ關係調査
- 一 貯藏溫度ト胚子發育トノ關係調査
- 一 風穴蠶種ノ不發生卵ノ原因調査(繼續)
- 一 風穴蠶種ノ貯藏溫度ト貯藏期間ニ關スル試験
- 一 風穴蠶種ノ貯藏溫度ノ變化ニ關スル試験(繼續)
- 一 風穴蠶種ノ低溫接觸期間ニ關スル試験

東 京 蠶 業 講 習 所 建 物



明治四十三年十一月十三日印刷
同 年十一月十五日發行

東京蠶業講習所

東京府下北豊島郡瀧野川村大字
西ヶ原千〇貳拾八番地

印刷者 堀 作 太 郎

東京市下谷區練塀町六十八番地

印刷所 萬 陽 堂

21-41

3
2

東京蚕業講習所一覽

明治42年度

国立国会図書館

特

8